



日本赤十字社

京都第一赤十字病院

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

絆

泉山長老
俊朝

京都第一赤十字病院より

き

す

な

人道と奉仕の赤十字精神に基づき、
患者さまにとって安心できる
適切な医療を行ないます。

春号

2017年4月発行

vol. 64

Contents

院長退任のご挨拶	2
院長就任のご挨拶	3
副院長就任のご挨拶	4
第2回東福寺周産期カンファレンスの開催報告	5
国民保護訓練の実施報告	6
お知らせ	7

春は、別れの季節でもあり、出会いの季節でもあります。当院においても、この3月、11年間にわたって院長をお勤めいただいた依田建吾先生をはじめ75名の方が退職され、4月には、池田栄人新院長のもと、110名を超える新入職員を迎えました。

このように、京都第一赤十字病院という名は変わらなくても、構成員は少しずつ変わっています。しかし、私たちが変わっていく以上に変化が激しいのが医療を取り巻く環境です。

医療技術の急速な進歩、人口総数の減と高齢化、国や自治体の財政の悪化、社会保障制度の変革など、これまでとは全く違った大きな波が医療機関に対して訪れています。

今から20年ほど前の当院入院者の平均在院日数

は約23日でした。それが、今や半分の11日台まで短くなってきています。このことだけを考えてみても、一つの医療機関だけで地域の皆様の医療需要すべてに応えられるわけでないのは、明らかです。

医療は、患者さんと医療機関が個別に向き合う形から、個々の患者さんに対して、得意分野を生かしながら、地域全体の医療機関で支える仕組みに変わっています。

私たちは、皆様方の様々なご意見をお聞きし、紹介・逆紹介を積極的に進めるなど、これまで以上に連携を強化しながら、引き続き、高度急性期の分野で地域医療を支えていきたいと思っています。

これからも、よろしくお願いします。

事務部長 田中 準一

院長退任のご挨拶



依田 建吾

3月31日付けで、11年間の院長生活を定年退職という最も嬉しい理由で終えることができました。これもひとえに皆様方のご支援の賜物と深く感謝しております。私が院長に就任した平成18年は医療崩壊が叫ばれ、診療報酬が歴史に類を見ない3.16%のマイナス改定の年でした。

本院の改築整備工事は平成14年から4年間で25億円の赤字となっていたため休止していました。赤字体質から脱却し、中途半端な状態の病院改築を完結するのが私の役目と経営改善に取り組みました。本院にとっての追い風は世間ではあまり評価の高く無い、民主党政権の出現だと思えます。その時に創設された地域再生基金や医療施設耐震化臨時特例交付金を受ける事ができ、平成23年2月に第二次工事の起工式を行い、平成28年3月には全ての工事が終了いたしました。足掛け20年という長い期間でしたが、京都第一赤十字病院は完全に生まれ変わりました。

ハード面だけでなく、平成18年にDPC対象病院

に指定され、平成24年には京都府下で唯一の高診療密度病院群(II群)の告示を受け、28年の改定で3期連続継続しております。またC棟の検査部門は27年1月に、非常にハードルの高いと言われているISO15189の認定を受けました、全国赤十字病院の中で本院のみの栄誉であります。

これらは皆、長期間にわたり工事が継続し、アクセスが悪い状況にもかかわらず、この冊子の題名のように太い「絆」により病診・病病連携を結んで頂いた皆様方のおかげと深く感謝いたします。

後任には池田栄人副院長が就任いたします。医療界は再び私が院長就任した頃のような困難な状況になりつつありますが、本院は今後も高機能急性期医療を担う役割を堅持し、地域の皆様と連携を密にして地域包括ケアシステムの一員として頑張っていくと思いますので、どうかさらなるご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。退任の挨拶といたします。



Kengo Yoda

院長就任のご挨拶



池田 栄人

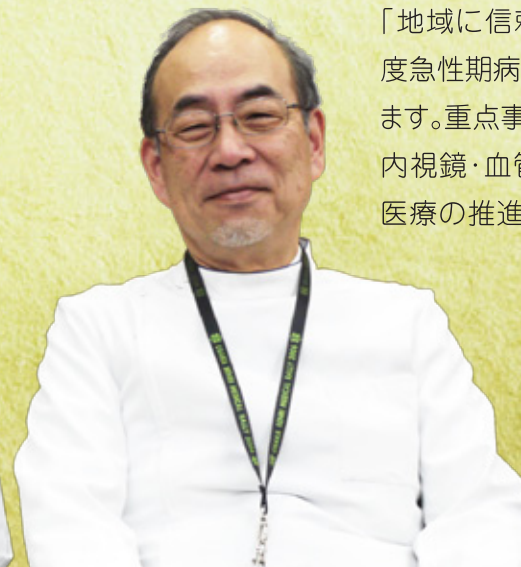
この度、依田建吾前院長の後任として、4月1日付けで京都第一赤十字病院の第十一代目の院長を拝命いたしました。歴史と実績のある病院の院長としての責任の重さに身の引き締まる思いが致します。私は昭和55年に外科医として着任後、平成5年から救急医となり救命救急センターの設立・管理に従事するとともに、平成17年から臨床研修および医療安全、平成28年からは経営戦略を担当し、33年勤務して参りました。今後とも、全身全霊を捧げて重責を全うしたいと思いますので、皆さまのご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

当院は、平成27年9月をもって念願の全面改築を終えることができました。今後は、超高齢化社会に伴い激変する医療環境に対応し、「地域に信頼され選ばれる高度急性期病院」を目指して参ります。重点事業としては、手術・内視鏡・血管造影などの高度医療の推進、救急医療の強化

と外来ハブ化、集学的・全人的ながん診療、周産期医療の充実、医療安全とホスピタリティの向上、災害への対応、そして、地域連携の推進による地域包括ケアの構築であります。

地域における急性期病院の役割として、時間内・外を問わず紹介いただいた方に高度専門医療を行い、急性期を過ぎたら早期に退院・転院していただくことが求められます。このことを患者・家族に理解していただき、急性期病院から切れ目ない医療・介護を展開していくためには、入院前から退院後を含めた一貫した患者支援(PFM)を行うことが重要です。当院は、今年度よりPFMの本格的な取り組みを開始し、「患者支援センター」の設立を目指します。最初は、手術対象の方より始めていきますので、ご指導・御鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

今後とも皆さまと連携を深め、より良い地域包括ケア・システムに向けて、当院の使命を果たしていきたいと思いますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



Eito Ikeda

副院長就任挨拶

Assumption
of office
greetings



副院長
(消化器外科)

塩 飽 保 博

本年4月より副院長を拝命いたしました。昭和58年に京都府立医科大学を卒業し、同大学附属病院第一外科(現消化器外科)に入局し、当院には平成2年に赴任いたしました。しばらくして当院は、旧態然とした病院から救急医療を中心とした急性期病院へと変貌をとげることとなり、私もそれを病院の一員として実践してまいりました。その経験はこれからの病院運営にも生かして行けるものと考えております。

専門領域は消化管の外科全般ですが、特に消化器癌、食道疾患、炎症性腸疾患を中心に診療を行ってきました。近年は消化器内科での内視鏡的治療や薬物療法の進歩で手術症例が減少傾向にありますが、まだまだ手術が必要な症例も沢山ありますので、今後も消化器内科とタイアップして、質の高い医療を提供していきたいと思っております。

今後は副院長として、手術場の運営と医療安全を中心に業務を行って行くことになっております。手術室というのは高度急性期医療をささえていく屋台骨のような存在です。当院は年間総手術件数が5896件、麻酔科管理手術が4163件と京都でもトップクラスの件数を行っております。これだけの件数となると、単に目の前の症例をこなすといったことだけでは業務を終えることができないため、麻酔科を中心に手術室や各診療科と協力し、効率の良い安全な運営を行っていきたくて考えております。医療安全については、医療の根幹を成しているもので、これ無くして現在の病院は成り立たないものです。職員全員の意識を高め、安全、安心、丁寧な医療を行って行くことにより、患者さんの満足度も自然に上がっていくと思っております。

今後の病院運営につきましては、他病院、医院との連携あって初めて成り立つものです。風通しの良い病院作りを行い、ますます地域連携を進めて行くことにより、病院も成長して行けると考えますので、今後ともご指導・ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

第2回

東福寺周産期

カンファレンス

開催報告

元新生児科 副部長 — 木下 大介
(現在は京都府立医科大学附属病院在籍)

2017年3月9日に、京都第一赤十字病院多目的ホールにおいて、第2回東福寺周産期カンファレンスを開催いたしました。院内外合わせて60名と、非常に多数の方々にご参加いただき、誠にありがとうございました。本カンファレンスは、母体搬送・新生児搬送などでやり取りがある周産期施設の医師・助産師を対象に、日常臨床に即した講演を企画すると共に、顔の見える関係を構築し、地域の連携強化を行う事を目的に開催しています。今回は第2回目の開催で、5名の医師から報告・講演が行われました。

新生児科の林藍先生からは、『RSVアップデート』として、RSウイルス感染症に対する最近の呼吸補助療法と、当院でのシナジス接種状況についての講演が行われました。藤田産科婦人科医院の藤田誠司先生からは、「産後の過多出血とそれに引き続く産科危機的出血の一例」として、一次周産期施設での産科危機的出血の対応例をご講演いただき、産婦人科の松本真理子先生から「当院における産褥搬送の検討」として、産後の過多出血での産褥搬送例のまとめをご講演いただきました。フロアからは、一次周産期施設での輸血製剤常備の是非や、産褥搬送のタイミングなどについて、活発な議論が行われました。最後に、新生

児科の山村玲理先生から、「赤ちゃんを守るために新生児室でできること」として、新生児室で陥りやすいピットフォールや、危急の疾患に気付くためのお勤めのモニタリング法などについてご講演いただきました。

新生児科の木下からは、新生児蘇生時の気道確保としてのラリンジアルマスクエアウェイについての講義と、ハンズオンセミナーを行いました。気管挿管に慣れている医師が常駐していない一次分娩施設では、とても有用なデバイスであると考えられました。事後アンケートでは、大変良かった：68%、良かった：16%と、大変ありがたいご評価をいただきました。

今後も本カンファレンスを定期開催し、地域の周産期医療の連携強化に貢献していきたいと考えております。来年度のご参加をお待ちしております。



—— 現場指揮所 ——

化学剤散布テロを想定した被災者受け入れと医療救護を行う国民保護共同実動訓練を行いました。内閣府、京都府、自衛隊、警察、消防やDMAT等が参加し、当院は病院受け入れ部門として看護学生を含めた約200人が参加しました。春から計画策定や他機関との調整を始め、11月から勉強会や練習を開始、12月に予行演習、直前まで勉強会や練習を繰り返し準備しました。当日は病院本部と現場指揮本部を設置してゾーニングを行い、救急外来等で診療を行いました。また、検視訓練や遺族対応訓練も行いました。外部評価の先生に緊張しながら、職員知恵を出し合いながら対応できましたが本番が来ないことを願います。

【救急科部長】 竹上 徹郎



トリアージ

—— ポストトリアージ ——

本院は受け入れ病院で、我々は徒歩や救急搬送された多数の負傷者をポストトリアージで振り分ける訓練を行いました。訓練に備え、救急車到着からトリアージエリアまでの誘導方法、傷病者除染後のWarmエリアとColdエリアの明瞭化、パディを組んだシミュレーション練習など、メンバー全員参加で何度もトレーニングをして臨みました。当日はトリアージエリアに傷病者が滞ることなく連携が図れ、皆の協力で其々の役割を果たすことができました。また、英語しか話せない傷病者には英語通訳のスタッフが即座に対応し、言葉による不安の軽減に努めることができました。

【看護師長】 田中 由美子



赤エリア

—— 除染 ——

私は、「除染」エリアを担当しました。除染の目的は、NBC物質の患者の体内への取りこみを減らすこと、救助者、医療従事者等への二次汚染を防止することです。除染の第一段階としては、「脱衣」です。確実な「脱衣」を行う事で、汚染は90%軽減されると言われています。汚染-非汚染のラインの明確化、言葉に頼らない脱衣方法の指示（防護服を着ると声が聞こえません）など苦労した点もありました。改めて災害医療は準備が9割と再認識しました。テントやボード、物品など手配して頂いた関係者各位ありがとうございました。

【リハビリテーション課 理学療法士】 加藤 大策



黄エリア

Joint actual work training

京都府国民保護 共同実動訓練

お知らせ

Information

第18回 京都第一日赤 がん診療連携ワークショップ

【日 時】平成29年6月1日(木) 18時15分～

【会 場】ホテルグランヴィア京都 3階 源氏の間

※詳細は、別紙をご参照ください。

病診連携
懇話会を
開催します

【日 時】平成29年7月6日(木) 17時30分～

【場 所】ハイアットリージェンシー京都

■肛門科外来開設のご案内（4月から）

肛門疾患は痔核・裂肛・痔瘻のほか、肛門周囲膿瘍・粘膜脱・直腸脱や肛門ポリープなど多岐に渡ります。今までも当院消化器外科ではこれらの疾患に対応して参りましたが、さらに紹介を受け入れやすくするため、肛門科外来を開設いたしました。当院は日本大腸肛門病学会認定施設に認定されており、同学会指導医・専門医である池田が主に外来・手術を担当いたします。肛門科外来は毎週水曜と金曜の午後に病診連携枠を設けています。肛門疾患でお困りの患者さまがおられましたら、ぜひ当科にご紹介いただければ幸いに存じます。

【消化器外科】 池田 純

Guidance

連携室だより

巻末コラム

41

この冬は珍しく雪も多く降り、冷え込みも近年に増して厳しかったですが、やっと長～いトンネルも抜け、爽やかな春の季節が訪れたと思うや、もう桜は散ってしまったでしょうか。

いえ、まだまだ綺麗な花はこれからも沢山咲きます。きっと皆様の心を和ませてくれることと思います。

一方でこの季節、同じ「はな」でも鼻と言えばむずむずするピークを迎えます。気が沈む日々が続きますが、早期対処と完全防備?でお互い何とか初夏まで辛抱しましょう。また、この時期は気候がいいこともあり、気が緩み心身両面に病がおこる季節とも言われていますので、どうか体調には十分注意してください。

春は出会いと別れの季節でもあります。新たな出会いに期待し、今一瞬のふれあいを大切にしてください。(一期一会)

新年度を向かえ、私自身も心機一転新しいスタートを切りたいと思います。最後に、誰かの一説と思いますが、終わったことを悲観せず、経験できたと喜び、成功したいと思うなら、自分の行いに自信を持ち信じることであり、その先にはきっと成功が待っているから。

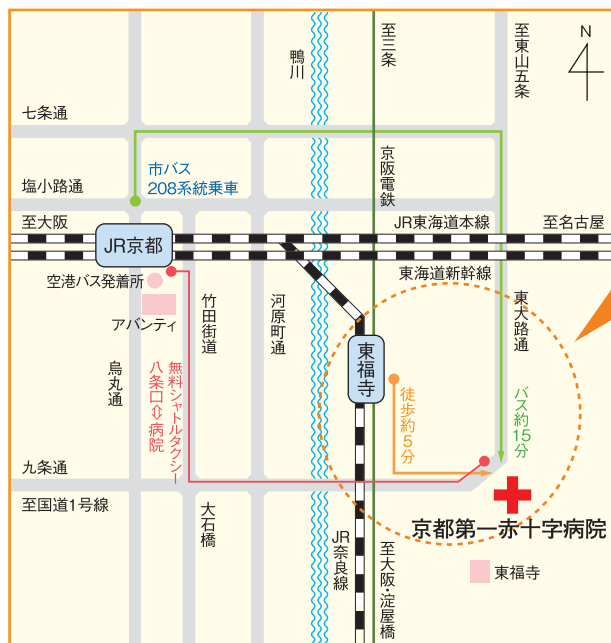
～さあ皆さん最初の一步を踏み出しましょう～

今年度も「絆」をよろしく願いいたします。

地域連携室

Access to Japanese Red Cross Kyoto Daiichi Hospital

当院へのアクセス



電車をご利用の場合

JR奈良線、京阪電鉄…「東福寺」駅下車、徒歩5分

バスをご利用の場合

市バス202、207、208系統「東福寺」バス停で下車

車をご利用の場合

【奈良、大阪方面から】…京都南IC出口、国道1号線を北へ約2.5キロ京阪国道口を東(右折)へ、九条通りを約2.5キロ

【山科、大津方面から】…国道1号線を西進、東山五条交差点を南(左折)へ、東大路通りを約2キロ

【京都駅付近から】…竹田街道を南へ約500メートル、大石橋交差点を東(左折)へ九条通りを約500メートル

無料シャトルタクシー運行のご案内【JR京都駅八条口や病院(地下鉄九条駅経由)】

	八条口発 病院行き	病院発 八条口行き
始発便	7:45	9:00
	次発 8:10、以降30分間隔で運行	以降30分間隔で運行
最終便	16:10	16:00

※12:40八条口発の便は運行していません。 ※12:30病院発の便は運行していません。

※交通状況により時刻に遅れが生じる場合があります。
※運行は平日のみとなります。土・日・祝日等病院の休診日は運行いたしません。
※定員9名のため満員の場合は次の便をご利用ください。

京都第一赤十字病院

京都市東山区本町15-749 TEL.075-561-1121

地域医療連携室 【直通】TEL.075-533-1280
FAX.075-533-1282